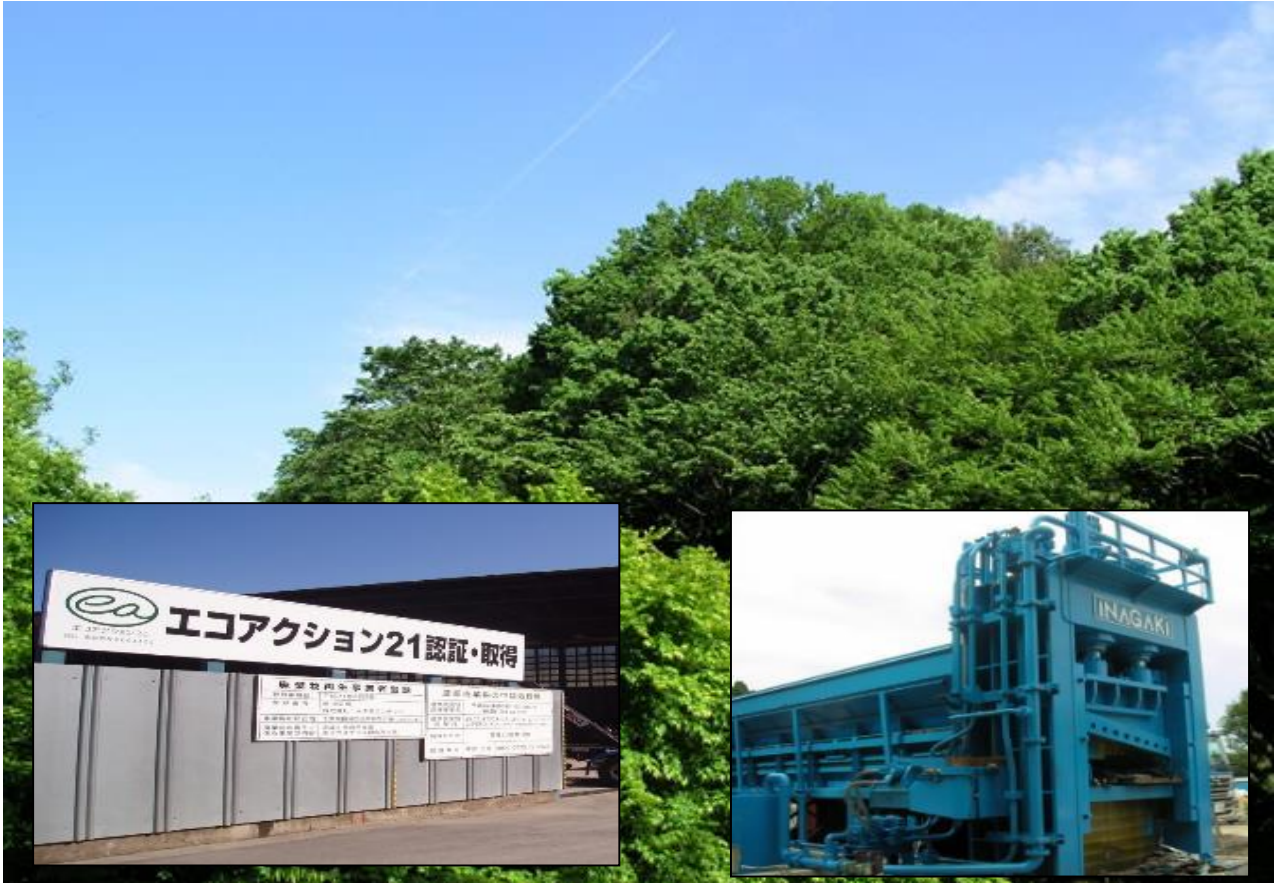


環境経営レポート



期間：2023年8月1日～2024年7月31日

2024年10月10日 作成



株式会社 イタミエコテック

[1] 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者名

事業所名 : 株式会社 イタミエコテック

代表者名 : 代表取締役 伊丹 正直

2) 登録対象範囲

① 対象事業所 本社 ： 〒299-5205 千葉県勝浦市杉戸639-1
TEL 0470-77-0041 FAX 0470-77-1717

中間処理場 ： 〒299-5205 千葉県勝浦市杉戸字向小谷640番8、840番9

いすみヤード ： 〒298-0134 千葉県いすみ市行川322-1
TEL 0470-80-5566

② 事業活動 産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物中間処理業、古物・金属くず取扱業、解体工事業、とび・土工事業

3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者：伊丹正直

連絡先 : TEL 0470-77-0041 FAX 047-77-1717

4) 事業の概要

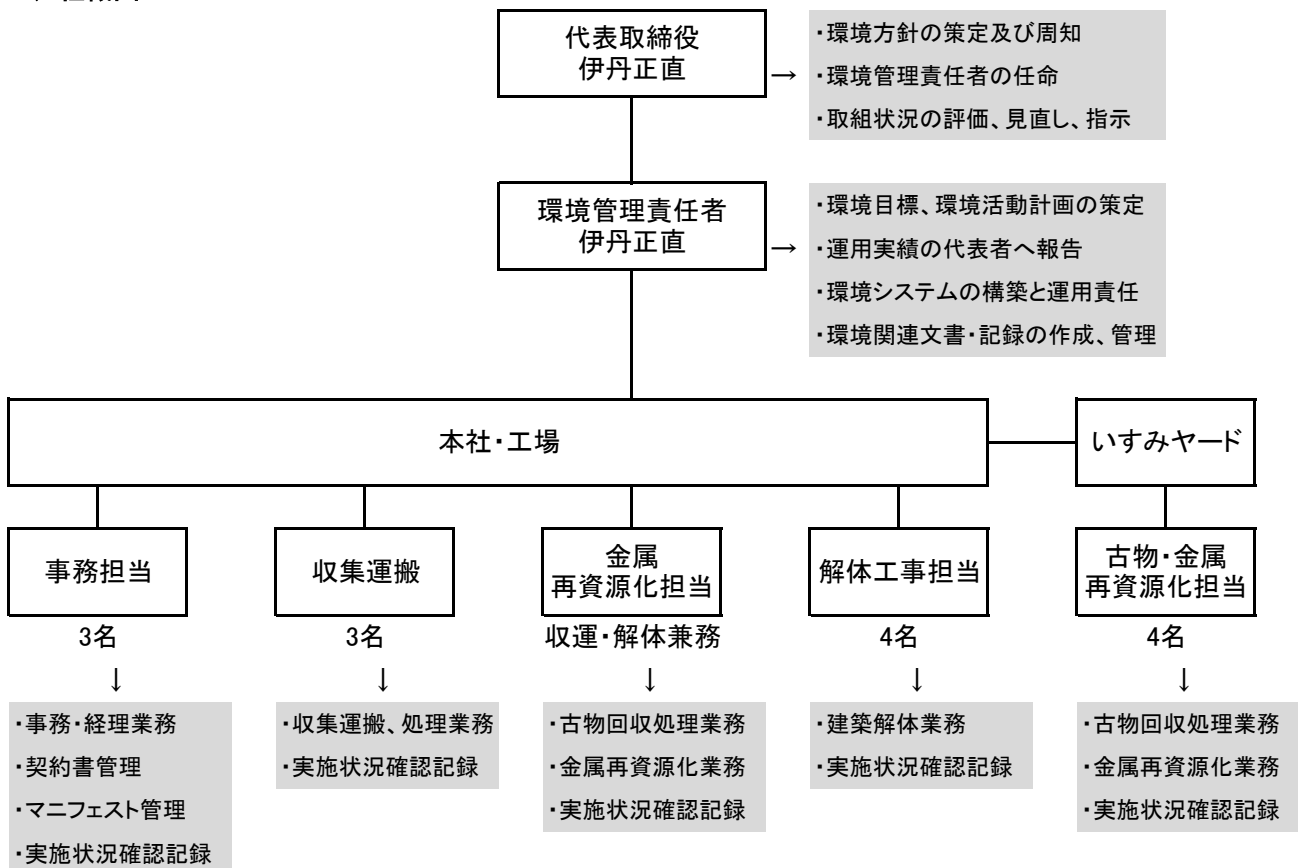
法人設立 : 昭和60年4月

資本金 : 1,000万円

売上高 : 1,110百万円 (2023年度 2023年8月～2024年7月)

従業員数 : 17名(役員3名、正社員13名、アルバイト1名)

5) 組織図



6) 許可の内容

① 産業廃棄物収集運搬業

許可自治体	千葉県	神奈川県	東京都	茨城県	埼玉県
許可番号	第01200036680号	第01403036680号	第13-00-036680号	第00801036680号	第01100036680号
優良認定	優良認定	優良認定	優良認定	優良認定	優良認定
許可年月日	平成30年2月27日	令和5年8月8日	令和5年7月4日	令和5年11月1日	令和5年9月7日
有効期限	令和7年1月23日	令和12年6月12日	令和12年7月3日	令和12年8月2日	令和12年8月4日
事業区分	収集・運搬	収集・運搬	収集・運搬	収集運搬	収集運搬
	積替・保管を除く	積替・保管を除く	積替え保管を除く	積替え保管を除く	積替え保管を除く
許可品目					
燃え殻	●	● *9	●		
汚泥	●	● *4、*9	● *3		
廃油	●	●	●		
廃プラスチック類	● *1	● *4	● *3	● *1	● *4、*5
紙くず	●	●	●	●	●
木くず	●	●	●	●	●
繊維くず	●	●	●	●	●
動植物性残さ	●	●	●		
金属くず	● *2	● *8	●	● *2	● *6
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	● *1	● *4	● *3	● *1	● *4、*7
がれき類	● *3	● *3	● *3	● *3	● *3
動物のふん尿	●				

*1 石綿含有産業廃棄及び水銀使用製品産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く

*2 水銀使用製品産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く

*3 石綿含有産業廃棄を含む

*4 石綿含有産業廃棄及び水銀使用製品産業廃棄物を含む

*5 石綿含有産業廃棄は、廃プリント配線板(鉛を含むはんだが使用されているものに限る)及び廃容器包装(有害物質又は有機性の物質が混入し、又は付着した固形状又は液体状の物の容器又は包装であって不要になったもの。以下同じ)を除く。

*6 水銀使用製品産業廃棄物を含む。

*7 がれき類を除き、石綿含有産業廃棄は廃ブラウン管(側面部に限る)、廃石膏ボード及び廃容器包装を除く。

*8 水銀使用製品産業廃棄物を含む。

*9 水銀含有ばいじん等を含む

② 産業廃棄物処分量

許可自治体	千葉県
許可番号	第01200036680号
優良認定	優良認定
許可年月日	平成30年11月13日
有効期限	令和7年10月8日
事業区分	圧縮及び圧縮・破砕による中間処理

許可品目	
圧縮による中間処理	
廃プラスチック類	● *1
金属くず	● *1
木くず	● *2
圧縮・破砕による中間処理	
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	● *1

*1 自動車等破砕物を除き、特別管理産業廃棄物であるものを除く。

*2 特別管理産業廃棄物であるものを除く。

③ 事業の用に供する全ての施設

施設の種類		処理能力又は保管量	数量	設置場所
圧縮施設		廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず 21.6t/日 2.7t/時 × 8時間	1基	千葉県勝浦市 杉戸字向小谷 640番8、 640番9
金属くずの保管施設		19m ² 19m ³	1基	
廃プラスチック類の保管施設		15m ² 15m ³	1基	
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずの保管施設		15m ² 15m ³	1基	
木くずの保管施設		15m ² 15m ³	1基	
処理後保管施設	再利用金属くずの保管施設	6.8m ² 8.0m ³	コンテナ1基	
	再利用の廃プラスチック類の保管施設	6.8m ² 8.0m ³	コンテナ1基	
	再利用木くずの保管施設	6.8m ² 8.0m ³	コンテナ1基	
		18m ² 33m ³	コンテナ1基	
	残渣物の保管施設	6.8m ² 8.0m ³	コンテナ1基	

④ 事業計画の概要

許可を受けた産業廃棄物について、事業者から運搬・処分の委託を受けた場合は、廃棄物処理及び清掃に関する法律に基づき委託契約書を締結し、排出事業者からマニフェストの交付を受け、自社の中間処理施設に運搬し適正に処分いたします。なお、他社からの搬入産業廃棄物の処理も法に則り行います。

⑤ 建築業の許可

許可番号	千葉県知事 許可(般-1) 第42270号
許可年月日	令和2年3月15日
許可有効期限	令和7年3月14日
建設業の種類	とび・土工事業、解体工事業

⑥ 廃棄物再生事業者の登録

許可自治体	千葉県
登録番号	第152号
登録年月日	平成21年4月9日
廃棄物の再生に係る事業の内容	金属くずの再生業、廃プラスチック類の再生業
再生施設	圧縮機

7) 施設等の状況

① 本社・工場

設備	名称・能力	台数	産廃の種類、設備の内訳
切断処理機 (産業廃棄物処理対象外施設)	ギロチン 63t/日 (7.9t × 8h)	1台	金属類
プレス処理機 (産業廃棄物処理対象施設)	プレス 21.6/日 (2.7t/h × 8h)	1台	廃プラスチック類、金属くず、木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
重機	フォークリフト	3台	4.5t-1台 3.5t-1台 2t-1台
	ショベル	10台	0.7m ³ -2台 0.45m ³ -3台 0.9m ³ -1台 0.25m ³ -1台 0.2m ³ -1台 0.1m ³ -2台
収集運搬、 土木、解体工事車両 *1	ダンプ車	1台	2t-1台
	コンテナ車	5台	4t-3台 8t-1台 3t-1台
	クレーン車	4台	4t-1台 2t-1台 15t-1台 8t-1台
	トラック	2台	15t-2台
	軽トラ	1台	0.35t-1台
	乗用車	4台	-
台貫	50t計量器	1台	-

② いすみヤード

設備	名称・能力	台数	産廃の種類、設備の内訳
クレーン	天井クレーン	4台	2.8t-3台 2.0t-1台
重機	フォークリフト	1台	3.5t-1台
	ショベル	4台	0.1m ³ -1台 0.2m ³ -2台 0.45m ³ -1台

③ 主な各設備画像

切断処理機



プレス機



PC210 (処理場、解体現場に各1台配備)



PC138 (処理場、解体現場に各1台配備)



SK30UR (木造解体工事用に導入)



④ 事業内容

● 産業廃棄物収集運搬

法人の事業活動から排出される木くず、ガラス陶磁器、廃プラスチック、金属屑などの産業廃棄物の収集運搬は、当社の中核事業です。

平成8年に千葉県より産業廃棄物収集運搬業の許可を取得して以来、建設会社や宿泊施設、ゴルフ場といった大量の産業廃棄物を排出する事業者様から長きにわたりご指名いただいています。

- 1 当社は「優良産廃処理業者認定」の安心できる処理業者です。
- 2 当社では環境に配慮した事業活動を心がけています。



● 非鉄金属・スクラップ

解体現場や各種工場などから発生するスクラップ(鉄くず)や非鉄金属(銅、アルミニウム、ステンレス、ニッケルなどの鉄以外の金属)をお引き取りし、分別したうえで買い取らせていただきます。

なお、法人・個人を問わずお持ち込み可能です。

- 1 高度な選別・分離技術でお客様に利益還元します。
- 2 大量の鉄スクラップもお任せください。



● 総合解体

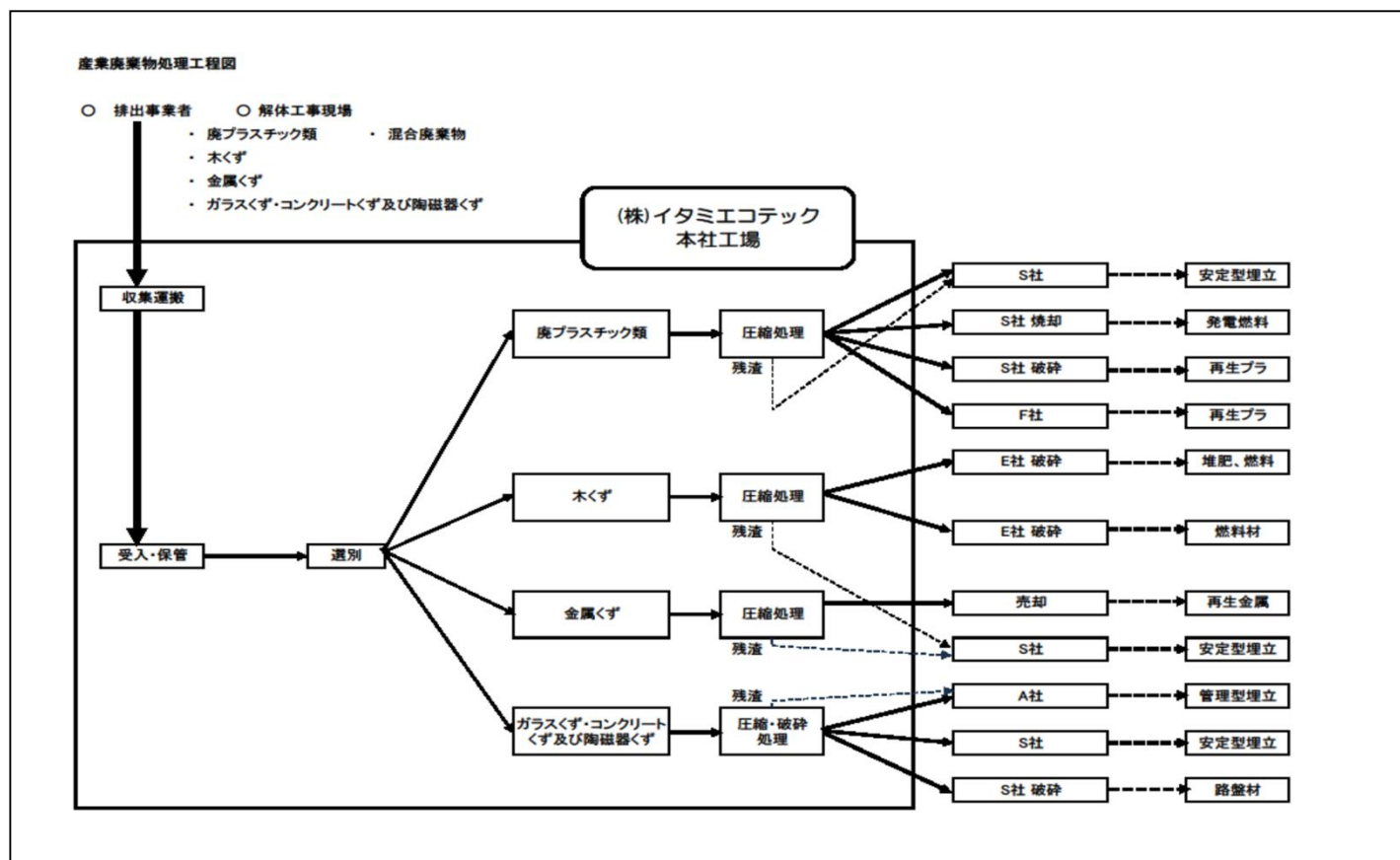
当社は、令和2年3月に千葉県一般建設業許可を取得(とび・土木工事業、解体工事業)し、一般家屋の解体事業を行っています。

静かで丁寧、周囲の環境に配慮した解体で、不動産会社様や建設会社様、ホームメーカー様などからご依頼をいただいております、技術力の高さが証明されています。

- 1 費用を抑えたい場合は、当社へご相談ください。



8) 処理工程図



いすみヤード

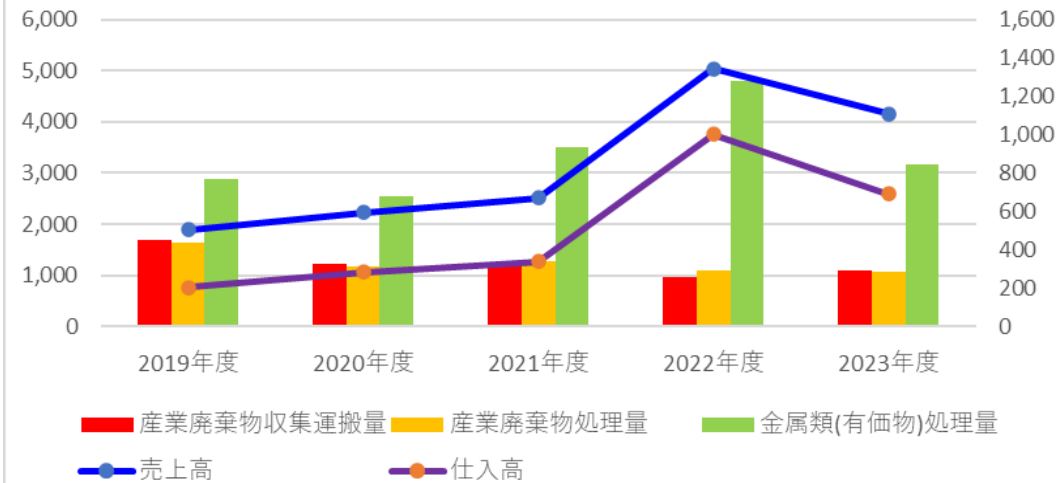


9) 事業規模と処理実績

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	百万円	505	595	671	1,344	1,110
仕入高	百万円	205	283	340	1,003	690
社員数	人	18	17	18	16	17
建物床面積	本社・工場	m ²	100	100	100	100
	いすみヤード		-	-	1,308	1,308
敷地面積	本社・工場		8,600	8,600	8,600	8,600
	いすみヤード		-	-	2,690	2,690
産業廃棄物収集運搬量	t	1,702	1,221	1,209	964	1,073
産業廃棄物処理量	t	1,631	1,181	1,273	1,099	1,073
金属類(有価物)処理量	t	2,892	2,536	3,513	4,790	3,180
二酸化炭素排出量 ※	t-CO ₂	196	211	292	251	257
工事金額	百万円	126	50	61	64	58
工事件数	件	79	36	43	42	42

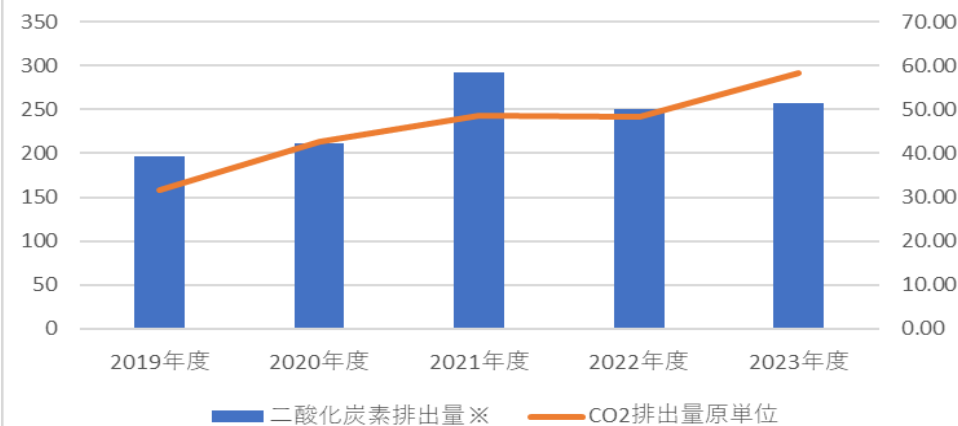
※ 電力のCO₂排出係数は2019～2021年度はウエスト電力0.407kg-CO₂/kWh(H30年度調整後移出係数を使用)
2022年度以降は、東京電力エネルギーパートナー(株)0.443kg-CO₂/kWh (R2年度調整後)を使用。

業績の推移



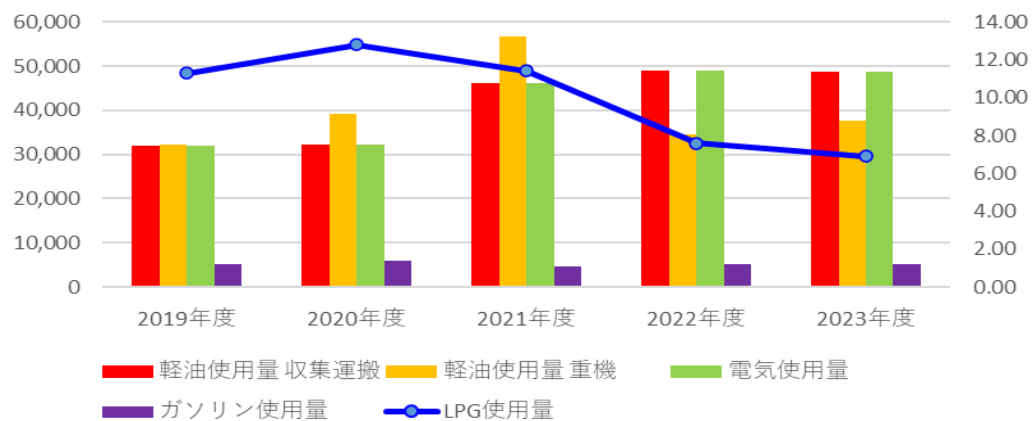
2023年度有価物量が昨年度より減少したが、2021年度以前よりは増加している。

CO2排出量と原単位推移



CO2総排出量は、前年より102.3%と増加し、原単位も120.65%と大幅に増加した。
「いすみヤード」が開設され、電気使用量及び収集運搬量が増加したためである。

CO2排出関連項目



2022年度から「いすみヤード」が開設されたため、電力使用量が増加した。
ただし、重機に対し稼働が増加したため、2022年度より増加。

[2] 環境経営方針

<基本理念>

大量生産・大量消費の工業化社会となり、これとともに廃棄物の多様化が進みました。
資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題であるとの認識に立ち、課題とチャンスを踏まえ、再生事業を推進することにより廃棄物を再生資源として利用できるよう、循環型社会の形成に積極的に取り組んでいきます。

<行動方針>

「地球環境への負荷低減」を当社のスローガンとして、環境への取組はリサイクルによる資源の再資源化、使用量の削減等を目標に掲げ、環境保全に配慮するため次に示す環境負荷低減活動に努めます。

- 1) 当社は産業廃棄物処理、リサイクル事業に於いて、環境マネジメントシステムを活用し、環境保全活動の継続的改善を図ります。
- 2) 環境関連法規制等の要求事項を遵守します。
- 3) 従業員に環境方針を周知させるとともに、環境活動レポートを作成し公表します。
- 4) 事業活動の中で特に以下の項目について低減・改善活動を推進します。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ・ 処理設備・照明の適正管理により電気使用量の削減に努めます。
 - ・ 重機、収集運搬車両のアイドリングストップ等の推進により軽油使用量の削減に努めます。
 - ② 廃棄物の削減
 - ・ 収集した廃プラスチックや金属スクラップ及び解体工事で発生した建設廃材の分別を徹底し最終処分量の削減に努めます。
 - ・ 自社一般廃棄物の削減に努めます。
 - ③ 地下水使用量の削減に努めます。
 - ④ その他の取組
 - ・ プラ・金属資源等の再資源化推進に努めます。
 - ・ 製品及びサービスへの環境配慮は、解体工事時の苦情ゼロを継続します。

制定 2008年10月21日

改定 2024年10月10日

株式会社 イタミエコテック

代表取締役 伊丹正直

[3] 環境経営目標と環境経営計画

2022年度実績を基準値として2023年度～2025年度中期環境経営目標を制定し活動をしてきました。

① 環境経営目標

年度 8月～7月

テーマと目標			単位	2022年度実績 基準値	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
二酸化炭素 排出量削減	電気使用量削減	本社・工場	kWh	37,594	37,594	37,594	37,594
		いすみヤード		15,372	15,372	15,372	15,372
		全社		52,966	52,966	52,966	52,966
	軽油使用量削減	収運車輛使用量	ℓ	48,864	48,864	48,864	48,864
		収運車輛原単位	ℓ/(収運量+有価量)	11.90	11.90	11.90	11.90
		重機使用量	ℓ	34,516	34,516	34,516	34,516
		重機原単位	ℓ/(処理量+有価物)	8.14	8.14	8.14	8.14
	ガソリン使用量削減		ℓ	5,128	5,128	5,128	5,128
	LPG使用量削減		m³	11.4	11.4	11.4	11.4
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	250,505	250,505	250,505	250,505	
自社廃棄物の削減		再資源化率	%	66.70%	66.70%	66.70%	66.70%
		OA紙購入数	枚	5,000	5,000	5,000	5,000
水道水使用量削減		本社・工場	m³	267	267	267	267
		いすみヤード		41	41	41	41
事業活動	産業廃棄物収集運搬量		t	964	964	964	964
	産業廃棄物処分量			1,099	1,099	1,099	1,099
	有価物量			3,142	3,142	3,142	3,142
	解体工事売上高		百万円	64	64	64	64
製品・サービスへの環境配慮			件	0	0	0	0

※ 電力排出係数は東京電力エナジーパートナー(株) R2年度調整後 0.443kg-CO2/kWhを使用・

※ 化学物質の使用はありません。

② 環境経営計画

取組目標	推進責任者	部門	主な取り組み
電気使用量の削減	兵頭 伊丹(隆)	本社・工場 いすみヤード	① 照明・事務機器・空調の節電 ② 取扱い機器の作業条件の標準化
軽油使用量の削減	吉田 伊丹(隆)	本社・工場 いすみヤード	① エコドライブの徹底 ② 車両の整備・点検の励行 ③ 収集時及び工事時の車両・重機の適正な選定 ④ エコ車両・重機への切り替え
ガソリン使用量削減	伊丹	全社	① エコドライブの徹底
LPG使用量削減	伊丹	〃	① 給湯器の無駄遣い排除
自社廃棄物の削減	伊丹	〃	① 分別の徹底
・産廃の再資源化率工場	君塚	本社・工場	① 処理前の選別作業の徹底
・OA紙の削減	伊丹	全社	① ペーパーレス推進 ② 裏紙利用徹底
水使用量の削減	伊丹 伊丹(隆)	本社・工場 いすみヤード	① 節水の励行
環境配慮(解体工事時の苦情ゼロ継続)	伊丹	全社	① チェックリストによる点検と実施

[4] 2023年度環境経営目標の実績及び環境経営計画の評価

① 環境経営目標に対する実績・評価

評価 達成率 ◎ 110%以上 ○ 97%以上110%未満 △ 95%以上97%未満 X 95%未満

テーマと目標			単位	2023年度 目標	2023年度 実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量削減	電気使用量削減	本社・工場	kWh	37,594	35,083	107.16%	○
		いすみヤード		15,372	14,078	109.19%	○
		全社		52,966	49,161	107.74%	○
	軽油使用量削減 *	収運車輛使用量	ℓ	48,864	48,788	100.16%	○
		収運車輛原単位	ℓ/(収運量+有価量)	11.90	11.38	104.55%	○
		重機使用量	ℓ	34,516	37,588	91.83%	X
		重機原単位	ℓ/(処理量+有価物量)	8.14	8.74	93.13%	X
	ガソリン使用量削減		ℓ	5,128	5,118	100.20%	○
	LPG使用量削減		m³	11.4	6.9	165.22%	◎
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	250,505	256,516	97.66%	△	
自社廃棄物の削減		再資源化率	%	66.70%	56.76%	85.10%	X
		OA紙購入枚数	枚	5,000	5,000	100.00%	◎
水道水使用量削減		本社・工場	m³	267	298	89.60%	X
		いすみヤード		41	28	146.43%	◎
事業活動	産業廃棄物収集運搬量		t	964	1,106	114.75%	◎
	産業廃棄物処分量			1,099	1,122	102.06%	○
	有価物量 本社			3,142	2,232	-	-
	有価物量 いすみヤード				948	-	-
	有価物量 合計			3,142	3,180	101.20%	○
	解体工事売上高		百万円	64	56	88.05%	X
製品・サービスへの環境配慮 *1			件	0	0	0	○

※ 電力排出係数は東京電力エネルギーパートナー(株) R2年度調整後 0.443kg-CO₂/kWhを使用・

※ 化学物質の使用は無し

取組目標	推進責任者	部門	主な取り組み	評価
電気使用量の削減	兵頭 伊丹(隆)	本社・工場 いすみヤード	① 照明・事務機器・空調の節電	5
			② 取扱い機器の作業条件の標準化	6
軽油使用量の削減	吉田 伊丹(隆)	本社・工場 いすみヤード	① エコドライブの徹底	5
			② 車両の整備・点検の励行	5
			③ 収集時及び工事時の車両・重機の適正な選定	5
			④ エコ車両・重機への切り替え	4
ガソリン使用量削減	伊丹	全社	① エコドライブの徹底	5
LPG使用量削減	伊丹	〃	① 給湯器の無駄遣い排除	5
自社廃棄物の削減	伊丹	〃	① 建廃及び産廃の分別の徹底	4
・産廃の再資源化率向上	君塚	解体工事・工場	① 処理前の選別作業の徹底	4
・OA紙の削減	伊丹	全社	① ペーパーレス推進	5
			② 裏紙利用徹底	5
水使用量の削減	伊丹 伊丹(隆)	本社・工場 いすみヤード	① 節水の励行	3
				5
環境配慮(解体工事時の苦情ゼロ継続)	伊丹	全社	① チェックリストによる点検と実施	5

[5] 環境経営目標の取組結果とその評価及び今後の取組

1) 環境活動の達成状況

① 電気使用量の削減(図-1)

本社・工場、いすみヤード共に電力使用量は目標値を下回りトータル107.74%と達成。
全体的に処理量及び有価物量の減少が影響したことが考えられます。

② 軽油使用量の削減(図-1)

収集運搬車両による軽油使用量は達成できているが、重機使用による軽油使用量が目標値の91.93%と未達成であるため、効率の良い重機稼働を心がけていきたい。
また、軽油原単位は重機が未達成で、これは処分量の目標値未達成が大きく影響している。

③ ガソリン使用量、LPG使用量の削減(図-1)

ガソリン及びLPGの使用量は、それぞれ100.2%、165.22%として達成している。
また、図-1の通り使用量においては、ほぼ一定である。

④ CO2総排出量(図-1 図-2)

CO2総排出量は昨年より102.3%と僅かながらに上昇しており、重機の使用が増加しており
効率的な重機の使用を考えなければならない。

⑤ 自社廃棄物

OA紙の使用枚数は、使用枚数を記載しているのではなく購入枚数を管理しているが、前年度の
購入の残枚数が次年度に繰越となっているため、正確な使用枚数の把握は難しい。

2023年度は残枚数を使用することで目標値を達成できた。

自社廃棄物の再資源化についても、昨年度(2022年度)から集計を初めて、2023年度はそのデータを
基準に目標値の設定を行い活動を行ってきたが、再資源化できる廃棄物の尚一層の細分化が必要
である。

⑥ 水使用量

水道水使用量は、本社・工場の使用量は、2021年1月から地下水の使用を中止し水道水利用に
切替えを行い、使用量は地下水利用時とほぼ同等の使用量となり、いすみヤードの開設に伴い、
会社全体の使用量が増加傾向にある。

⑦ 事業活動(図-3)

収集運搬量、処分量及び有価物量は増加、特にいすみヤード開設に伴い、有価物量は増加している。

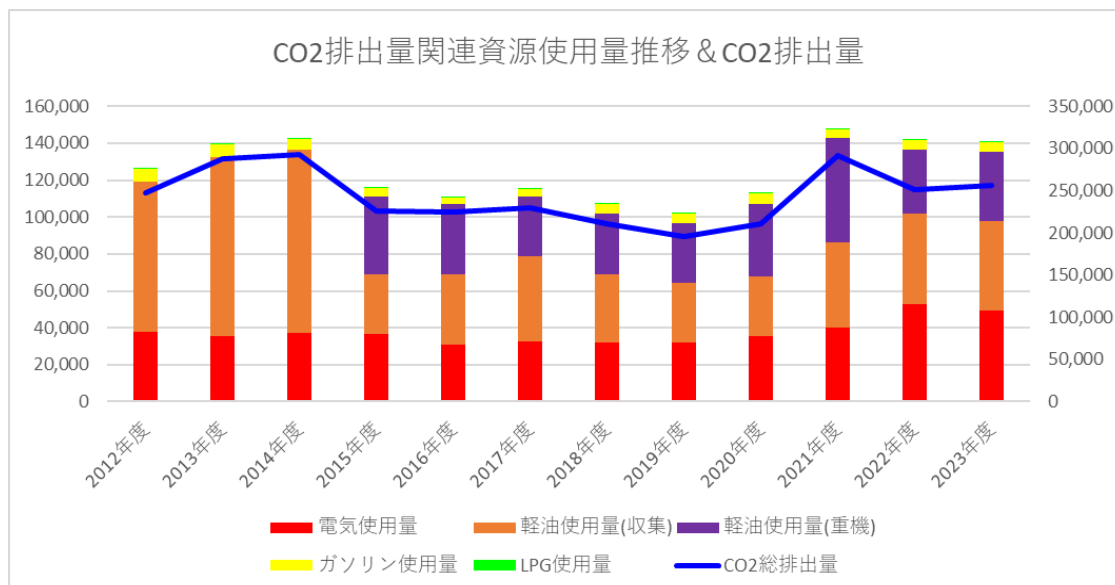
2) 環境経営計画実施の結果

環境教育、緊急事態訓練(昨年審査時に推奨された内容)、環境関連法令遵守評価は、計画通りに行いました。
緊急事態対応訓練は、2022年度更新審査時に推奨された、いすみヤードの火災訓練を実施いたしました。

3) 次年度以降の環境経営目標及び環境経営計画について

2023年度の実績値を基に再度2024年度～2026年度の中期経営目標の策定を行い、環境経営計画もP11 ②の
内容を多少見直し立案をいたします。

図-1



※ 軽油使用量は、2015年度から「収集運搬車両」と「重機」に区分して集計を行っている。

※ 電気使用量は、2022年度からいすみヤードが追加された。

図-2

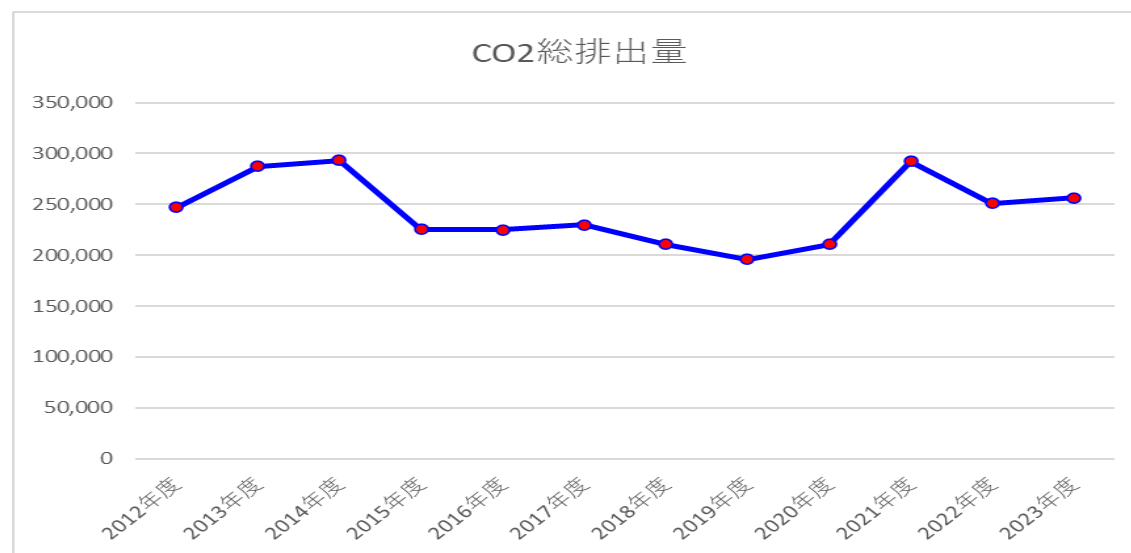
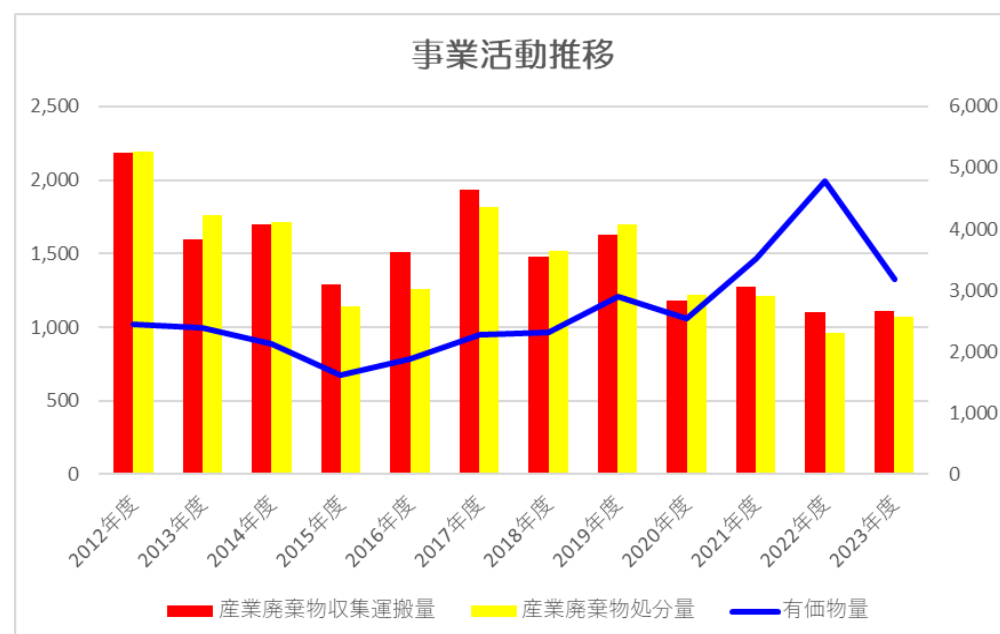


図-3



[6] 緊急事態対応訓練「いすみヤード消火ポンプ作動訓練」訓練日2024年9月18日

- いすみヤードに設置されている消火ポンプ及び貯水槽の作動訓練を行った。
この訓練は、緊急時にスムーズに操作を行える事を目的として行いました。



保管庫内のポンプ



外に出して設置



エンジン始動



注水開始



放水開始



放水



放水幅変更 1



放水幅変更 2



放水停止



撤収作業 1



撤収作業 2



保管庫へ

※ 作業者全員が地域の消防団員に所属しているため、消火ポンプ起動、操作及び放水作業への対応は特に問題はなかった。

[7] その他の環境活動

- 1) 千葉県CO2CO2(コツコツ)スマート宣言事業所登録制度に2017年9月に登録されました。
産業廃棄物処理と解体工事で資源循環型社会形成に努めています。
また、エコアクション21で事業活動に伴う電気・軽油・ガソリン等による二酸化炭素排出量削減や
廃棄物の削減等で地球温暖化防止に積極的に取り組んでいます。



- 2) ちばSDGsパートナー登録制度 登録番号1167(令和4年6月25日宣言)
産業廃棄物の適正処理についてパートナーシップ企業様と情報を共有し、法令遵守や再資源化と一緒に取り組んでいきます。

1、関係するSDGs目標(ゴール)



ちばSDGs



2、SDGs達成に向けた経営方針等

SDGs推進に取り組む他企業や地域の様々な団体、学校等と連携し、持続可能な社会づくりを進めます。

- ・ エコアクション21環境経営を進め、環境に配慮した経営を進めます。
- ・ 事業者から排出された廃棄物の再資源化に努めます。

取引事業者様へSDGsを知ってもらえるよう、普及啓発に取り組みます。

3) 地域活動等

2023年度も昨年度同様、会社近くの側道の法面等の除草整備等を、重機等を使用して整備しました。



[8] 2024年度以降の取組

2024年度～2026年度中期経営目標を過去12年分(2012年度～2023年度)の実績を踏まえ下記の通り目標設定し二酸化炭素削減に推進していきます。

1) 2024年度～2026年度中期経営目標

テーマと目標			単位	基準値	2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出量削減	電気使用量削減	本社・工場	kWh	38,016	37,636	37,259	37,636
		いすみヤード		15,372	15,218	15,066	14,915
		全社		53,388	52,854	52,326	52,551
	軽油使用量削減	収運車輛使用量	ℓ	53,222	52,690	52,163	51,641
		収運車輛原単位	ℓ/(収運量+有価量)	10.97	10.75	10.54	10.33
		重機使用量	ℓ	38,359	37,975	37,596	37,220
		重機原単位	ℓ/(処理量+有価量)	7.88	7.72	7.57	7.42
	ガソリン使用量削減		ℓ	6,316	6,253	6,190	6,128
	LPG使用量削減		m³	12.82	12.69	12.56	12.44
	二酸化炭素総排出量		kg-CO2	274,610	271,863	269,145	266,785
二酸化炭素原単位		kg-CO2/t(事業活動(①+②+③))	45.97	45.06	44.17	43.34	
自社廃棄物の削減		産廃再資源化率	%	65.60%	65.60%以上		
		建廃再資源化率	%	90.00%	90.00%以上		
		OA紙使用	箱	A4換算3箱	A4換算3箱(15,000枚)		
水道水使用量削減		本社・工場	m³	358	358m³を維持		
		いすみヤード		41	41m³を維持		
事業活動	①産業廃棄物収集運搬量		t	1,106	1,117	1,128	1,140
	②産業廃棄物処分量			1,122	1,133	1,145	1,156
	③有価物量合計			3,746	3,784	3,821	3,859
	☆有価物量(本社)			2,448	2,473	2,497	2,522
	☆有価物量(いすみヤード)			1,298	1,311	1,324	1,337
	解体工事売上高		百万円	62.8	63.4	64.1	64.7
製品・サービスへの環境配慮 (解体工事時の苦情件数)			件	ゼロ件	ゼロ件を維持		

※ 電力排出係数は、東京電力エネルギーパートナー(株)0.443kg-CO2/kWh (R2年度調整後メニューJ)を使用

【2024年度以降の環境経営目標値について】

- ① 基準値データは、2012年度～2023年度の平均値又はそのばらつきを標準偏差を用いて算出しています。
- ② 各種削減目標は、2024年度は基準値のマイナス1%、2025年度以降は前年度目標値のマイナス1%削減とします。
- ③ 電気使用量は本社・工場、いすみヤードにて個別管理を行い、総削減量を評価する。
- ④ 収集運搬車輛軽油使用量原単位は、軽油使用容量÷(収集運搬量+有価量)にて算出。
- ⑤ 重機軽油使用量原単位は、重機軽油使用量÷(処理量+有価物量)にて算出し基準値のマイナス1%とする。
- ⑥ 収集運搬量と処分量は、2024年度は基準値のプラス1%、2025年度以降は前年目標値プラス1%とします。
- ⑦ 有価物量の集計を本社工場といすみヤードに分けて管理、基準値は平均値を基準としてそれを維持する。
- ⑧ 再資源化率は、産廃及び建廃の2023年度実績を2024年度以降も維持して行きます。
- ⑨ OA紙使用については、A4用紙3箱を基準(大手通販サイト等は、A4用紙1箱5,000枚)を2024年度以降も維持。

※ OA紙購入(1回5,000枚)後数ヶ月間は、購入枚数を消費するため、年度末に購入した場合繰越すため、使用枚数管理より購入箱数管理が適切であるため。

- ⑩ 水使用量は、実績値を本社・工場及びいすみヤード共に基準値を維持する。

2) 2024年度～2026年度環境経営計画

項目	推進責任者	部門	主な取組内容
電気使用量削減	兵頭 伊丹(隆)	本社・工場、 いすみヤード	① 照明・事務機器・空調の節電 ② 不使用・不在時は電気をOFF ③ 取扱機器の作業標準化
軽油使用量の削減	吉田、伊丹(隆)	本社・工場、 いすみヤード	① エコドライブの徹底 ② 車両の整備、点検の励行 ③ 収集時及び工事時の車両・重機の適正な選定 ④ 収集運搬時の最適ルートを中心掛ける ⑤ 適正な積載量を心掛け交通法規を遵守する ⑥ エコ車両、エコ重機への切り替え
ガソリン使用量削減	伊丹	全社	① エコドライブの徹底 ② 不要時のアイドリングストップ
LPG使用量削減	伊丹	全社	① 給湯器の無駄使用の排除
自社廃棄物削減	伊丹	全社	① 分別の徹底
産廃の再資源率の向上	君塚	本社・工場	① 解体工事及び工場分別作業の徹底
OA紙の使用量削減	伊丹	全社	① ペーパレスの推進 ② 裏紙の使用
水の使用量削減	伊丹	本社・工場	① 節水の励行 ② 配管の漏水点検 ③ 蛇口のパッキン等点検
	伊丹(隆)	いすみヤード	① 節水の励行 ② 配管の漏水点検 ③ 蛇口のパッキン等点検
環境配慮 (解体工事時の苦情ゼロを継続)	伊丹	全社	① チェックリストによる点検と実施

基本は10P②環境基本計画に準拠するが、下記の項目を追加して環境経営計画を実施。

- ① 電気使用量の削減へ②として不在時、不使用の場合、電気OFFを追加。
- ② 軽油使用量削減へ④として収集車両使用時は最適なルートを選択
- ③ 軽油使用量削減へ⑤として過積載を排除して、交通法規を遵守することを追加
- ④ ガソリン使用量削減へ②として不要時のアイドリングストップを追加
- ⑤ 水使用量の削減へ本社、いすみヤードともに②③の漏水点検、パッキン等の点検を追加

【9】環境関連法規への違反、訴訟の有無

1) 当社に適用される主な環境関連法規

廃棄物処理法、騒音規制法、振動規制法、自動車NOx・PM法、建設リサイクル法、建設業法、浄化槽法
水質汚濁防止法、大気汚染防止法、労働安全衛生法、消防法、高圧ガス保安法、道路交通法、計量法
フロン排出抑制法、千葉県環境保全条例、勝浦市環境保全条例等です。
詳細は、別紙「環境関係法令等登録表/遵守評価記録」を参照

2) 環境関連訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況は、「環境関係法令等登録表/遵守評価記録」により、2024年8月に評価したところ違反は有りませんでした。

また、近隣からの苦情や解体現場での苦情等も有りませんでした。

そして、関係当局からも過去3年間に渡って違反の指摘事項や訴訟は有りませんでした。

【10】代表者による全社総評と見直し、指示

1) 2023年度活動の評価

2023年度は2022年度の実績を基に新たに制定した中期経営計画（2023年度～2025年度）の1年度目の2023年度の目標を遂行して来ました。

二酸化炭素排出に係る電気使用量、ガソリン使用量、LPG使用量はそれぞれ目標値を達成しましたが、軽油使用量削減においては、収集運搬車両は目標値を達成しましたが、重機使用における軽油使用量が未達成となりました。

これは、いすみヤードの開設に伴う有価物の受入量が昨年より減少したとはいえ、2022年度の実績を基準としたため過去の重機軽油使用量を考慮しなかったため、目標値の設定を低く見積った事が起因する事が原因と思われます。

この影響で、二酸化炭素総排出量は昨年より若干ながら増加しています。

軽油原単位も重機においては、処分量が減少したことにより未達成に終わった。

水道水の使用量については、いすみヤードは達成しているが、本社・工場においては引続き洗濯等の水使用が継続され未達成となった。

自社廃棄物の再資源化率は未達成であるが、昨年度同様分別の徹底は行っているが、現場等の状況によっては再資源可能な廃棄物は変動するためなんともいたし方がない。

解体工事現場での苦情に関しては、引続きゼロ件を維持し継続しているので、今後も途切れさせる事なく継続して行きます。

事業活動においては、金属リサイクルへの優先度を高めているため達成しているが、産業廃棄物処理量が減少している。但し、収集運搬量は昨年より増加している。

2) 2024年度への指示

- ① 再度目標値の見直しを行い、2024年度～2026年度の中期経営目標の再設定、特に有価物量の増加を踏まえた目標値とし、P17 1)を設定します。

産業廃棄物収集運搬量及び産業廃棄物処分量は現状維持、電気・軽油・ガソリン・LPGの使用量は、過去の実績を基に基準値を設定し P17 1)の目標値として、都度目標値の見直しを行って行きます。環境経営計画は、P18の通り設定し、2023年度のP11 ②の環境経営計画の基準に設定してください。尚、環境経営目標は過去の12年間の実績から各項目の基準値を割り出し、その基準値に対して前述の内容を踏まえて、2024年度～2026年度の目標値を設定してください。

- ② 指示内容

環境経営方針は、④のグリーン購入を削除し、製品及びサービスへの環境配慮を残し、プラ・金属資源等の再資源化推進を追加します。

- ③ 環境系システムは変更はありません。